

# 宮沢賢治記念館通信

発行 〒025-0011 岩手県花巻市矢沢1-1-36 宮沢賢治記念館

☎ (0198) 31-2319  
FAX (0198) 31-2320

そのみどりの葉にあつい頬をあてる  
おお おまへはまるでとびつくやうに  
あのきれいな松のえだだよ  
さつきのみぞれをとつてきた

(「松の針」より)



## 宮沢賢治と自分の共通点を探すという 不遜な試みを敢えて強行した愚か者の手記

えふえむ花巻放送局長 落合昭彦



意外に知らない方も多いのですが私のラジオ番組はスマホやパソコンなどインターネットで聞くことができます。公式ホームページのトップ画面からアクセスできます。そのバナーをクリックすると局名が表示され、紹介文として「宮沢賢治の故郷、花巻市。岩手県のほぼ中央から花巻の今を伝えるFM One、まんず聞いてけでえ～！」と記されています。

最近は、大谷選手や雄星投手が高校時代を過ごした「野球の街」として認知している人も多い花

巻市ですが、全国に知名度抜群の賢治さんの出身地というだけではほとんどの方がわかってくれるのも事実です。花巻市にとって賢治さんが生まれ育った街であることは他の自治体がマネできない観光資源なのです。

そんな賢治さんについて作品も満足に読んでいない私が語る資格はないかもしれません、今回は敢えて不遜な告白をします！

東京からイーハトーブ岩手に移住して三十年、花巻のラジオ局に通うようになって十年余り、放送では決して話していませんが、密かに確信しているのは、賢治さんと私の「共通点の多さ」なのです。まずは伝記等で知る生い立ちの中から。

賢治さん同様、私は極めて厳格な父の下で育ち、喧嘩をしたわけではありませんが中学時代に家族と別居生活を開始、父の期待した進路には進まず

周囲を心配させます。また私にはトシの様な極めて優秀な妹がいます。子どもの頃から助けられてきた兄でしたが、特にここ数年間は、体調を崩した東京の母の介護に関して本当によくサポートしてくれています。

次に、賢治さんと私が性格的に似ていると感じる部分。これは昔から薄々気づいていましたが、ひと言で言えば凝り性でマニアックな点。「石っこ賢さん」の面目躍如です。

とにかく興味を持つと深くのめりこんで寝食を忘れる傾向があります。例えば子どもの頃から不思議ミステリー系の話が大好きだった私は、岩手に移住してからそのジャンルのエピソードの多さに感激興奮し、ついにパーソナリティを務めるラジオ番組で「花巻不思議研究所」というレギュラーコーナーを始めてしまいました。

(現在も好評?放送中)

賢治さんの作品にも私をワクワクさせる内容のものが数多くあります。早池峰山での不思議なできごとを語る「河原坊」という詩には、夢うつつの中で見たものとして「裸脚四つをそろへて立つひと なぜ上半身がわたくしの眼に見えないのか」という表現がある他「みぞざざい みぞざざい」という呪文の様な言葉も出てきて、私の妄想は果てしなく広がって行くことになります。

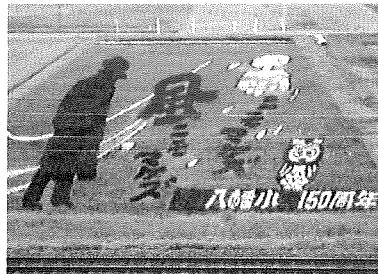
そして勝手ながら賢治さんと私の共通点として指摘する3つ目は、花巻を含むイーハトーブ岩手が大好きであること。賢治作品は世界的にもファンが多く、賢治さんの視点の普遍性やグローバリズムという切り口で説明されることが多いのかもしれません。しかし私は「どんぐりと山猫」などの短編から、「銀河鉄道の夜」といった長編まで、個々の作品世界には、イーハトーブ岩手に対する深い愛情と地元意識が貫かれていると感じます。作品によってストーリーは様々ですが、いずれも読んでいると賢治さんが「岩手っていいでしょ?自然の世界ってすごいでしょ?岩手に暮らすって素敵なことだと思わない?」と話しかけてくる様な気がします。

私は岩手出身ではありませんが、移住して三十年、岩手生活を重ねるたびに、どんどん岩手の事が好きになってきました。そして仕事柄、岩手の人に岩手の魅力を伝えることに最近ある種の「使命感」すら感じるようになっています。放送のほか、講演や研修、イベント司会などの仕事を通じ

て、私はアイターン人間の「よそもの」だからこそ自覚できる岩手の様々な素晴らしいを日々発信していきたいと考えています。私はそれを名づけて「情報の地産地消」と呼び、地元の農産物を食べるよう、地元の正しい情報を得て理解を深めることの重要性を訴えてきました。

一方、賢治さんはどうでしょうか?彼の作品は、そこまで自覚的にイーハトーブ岩手の良さや魅力を発信している様には見えないかもしれません。でも、私にはどの作品も「地元」の人が読んだり感じたりすることを、賢治さんが多少なりとも意識している気がしてならないのです。

来年は、賢治さん没後90年の節目の年になります。これまでの賢治と賢治作品の研究は、どちらかと言えば「それがいかに多くの人に訴えるか」という観点で語られてきたのではないかと思います。もちろんそのことはとても大切ですが、私はそろそろイーハトーブに住む私たちが、積極的に賢治さんのメッセージを受け止め、地域づくりに活用していくべき時期に来ているのではないかと思うのです。賢治さんは、生まれ育った花巻や岩手のことをいつも気にかけつつ作品を書いていたに違いない。そんな前提で地元に住む私たちは今一度、賢治さんのメッセージを再検証すべき時に来ているのではないかでしょ▲花巻市石鳥谷町「八幡田んぼアート」



## 風の吹くまま

アザリア奇譚部、長岡市立図書館司書

藤田 なお子



賢治の物語が動き出す時、風が吹く。ということは、賢治ファンなら常識かもしれない。だが、賢治読者の人生において、その風はいつもわかりやすくどっどと吹いてくれるわけではない。気にも留めないほどささやかなそよ風が、前髪を揺らす力もないほどかすかな空気の揺らぎが、いつの間にか後戻りできないほど背を押す強風になっている

こともあるのだ。

思い返せば、私が賢治自身に興味を持った季節は大学院入学準備を終えた冬の終わりだった。春一番の気配を感じながらも、木枯らしはなりを潜め、実に穏やかな気候だったことを覚えている。もともと賢治の童話には親しんでいたが、宮沢賢治その人は九州出身関西在住の私には距離があった。だからこそ、彼を知るために本を開き、ページをめくるたびに風を伴って動き出す賢治の人生の物語に衝撃を受けた。長い青春を引きずっていた私は、賢治の青春時代に強く心惹かれた。西洋躊躇の花の香をまとった風は、私を旅立たせる力を持っていました。

そして私は山梨へ向かった。賢治の友人である保阪嘉内の故郷である山梨は、立っていられないほど強い風が吹く土地であった。賢治の青春を追う中で、保阪嘉内を見過ごすわけにはいかない。嘉内の面影を求め、ひとりで冬の山梨の町を歩いた高揚感。幸運に恵まれ、嘉内のご子息である故・保阪庸夫氏にお会いできた時の緊張と喜び。八ヶ岳嵐（おろし）の強さに押され、私の物語も動き出した気がした。

その後、私は後にアザリア奇譚部という名で共に活動することとなる彼方遙峰（ヨウホ）氏と出会う。以来、賢治の青春の象徴である文芸同人誌「アザリア」の調査のために、北に資料があると聞けば行って複写をし、東に関係者がいると聞けば行っておはなしを伺い、と飛び回り、非常に充実した日々を送ってきた。まるで、私たち自身が暴風であったような、そんな日々だった。

そして今、宮沢賢治が好きな人なら必ず訪れる、もしくは訪れたいと切望する宮沢賢治記念館の通信に、賢治への思いを寄せることになるのだから、風の吹く先はわからないものである。

賢治は、風からも物語を聞かせてもらい、拾つて歩いた人物だ。奇しくも、賢治の友人であり「アザリア」の仲間である河本緑石（義行）もまた、「風がおとすもの拾うてゐる」という句を遺している。彼らにとって風はただの大気の動きではなかったのだろう。

それはきっと、どこまでも自由で気まぐれで、たまに戻ってきてはポトリと何かの種を落としていく。その種を芽吹かせられるかどうかは、拾った者次第なのだろう。

私も、きっと風が落とした種を握ったのだと思

う。それは「アザリア」研究のために走り回った日々の中で見つけた、「アザリア」メンバー同士の交友であったり、「銀河鉄道の夜」の新たな読み方の可能性であったり、私たちが動いたことで眠っていた資料や人脈に血が通っていくことであったり……。宮沢賢治をスタート地点にして、宮沢賢治を追うだけでは届かなかつたものに、たくさん出会い、たくさん学んできたと思っている。それは、賢治が繋いでくれたものであるとも言え、役者として不足していないか背筋が伸びる思いである。

と、つらつらととりとめもなく賢治からもらった風について語ってきたが、この通信が出る頃には、それこそどっどどどどど、と強風に煽られ、ひっくり返っているだろう。イーハトーブ賞奨励賞、という風は、私たちだけでは到達できないもので、光榮さと同時に、まさか！という思いがこの原稿を書いている今も拭い去れない。

ああ、そうだ、「風野又三郎」でも言われていた。「大きなサイクルホールはとても一人ぢや出来あしない」。私が感じ



た花の香がするそよ風は、いつの間にか多くの人の風と結びつき、こんなにも大きなサイクルホールになっていた。なるほど、賢治はとっくに風の仕組みを教えてくれていたのだ。

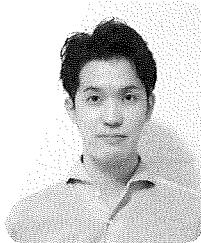
本稿を私に依頼した宮沢賢治記念館のS氏は、先だっての夏に、私たちアザリア奇譚部のYoutube ラジオでコラボ企画をした人物である。彼女の相棒的存在もまた、花巻を支える仕事に従事しているという。SNS 上でやり取りをする私たちは実際に会う機会を持てていないが、それでも賢治が好きという思いで結びつくことができたのだ。

新型コロナウィルスの影響で、安易に行きかうことが困難になってなお、風は吹き、種を落とし、芽吹いていく。私たちが興味を引かれてやまない宮沢賢治という人物は、そんな自然の営みを、人と人が繋がり合っていくことを、好んでいたのではないか、と思う。だからこそ、私たちは風の吹くまま、物語を動かし続けることができるのだ。

願わくば、この強い追い風を背に、賢治を愛する人たちのもとへ新たなそよ風を届けていきますように。

## 作品の欠片を探して

図書館司書 中目智也



初めて出会った賢治さんの作品は「注文の多い料理店」だった。幼い頃はあまり活字と仲良くできなかったが、なぜだか幼心に受けたその作品の圧倒的な印象が、いつまでもひときわに輝いていた。もちろんその頃の印象など何度も読み返すうちにとうの昔に上書きされてしまった。それでも、もう四半世紀も前に読んだたった一つの話を未だに何度も読み返している。

それから時は過ぎ、大人になってからまた手にした文庫本をきっかけに、イーハトヴの世界に迷い込み、抜け出せなくなってしまった。8年前のことだ。その時は、なぜそんなに急激に惹かれたのか訳もわからず、怒涛の勢いで作品を読んだ。しばらくすると、不思議なことに賢治作品を読めば読むほどそれらを読んでばかりいられなくなるという事態に陥っていた。陥ったと言うと何だか悪い事のようだが、そう言ったほうが、この状態を正確に表現できていると思う。そしてそれが賢治作品の魅力の一つだ。

例えば、童話集『注文の多い料理店』の広告文を読めば、文中にある大小クラウス、アリス、イヴンの登場する物語を読み、テパンタール砂漠を探して、ベンガルの詩人の全集などを当たってみる。こうして次から次と他に読みたい本が出てくる。それは文学作品に限らない。まったく読んでも読んでも、次に知りたいこと、読みたいものが多くなる。

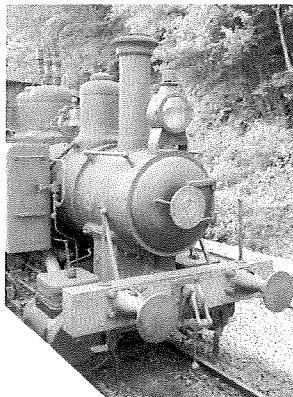
賢治さんの作品はまた新たな本との出会いの扉を開けてくれると同時に、読書以外の世界にも招待してくれた。

その一つが鉱物標本だ。作品に出てくる鉱物が一体どんなものなのか…実際に手に取りたくなったのだ。安価で手に入りやすい紫水晶から始まり、気付けば賢治作品に関係ない鉱物まで買ってしまって、今ではちょっとしたコレクションになっている。

そして、いつの間にか鉱物だけでは飽き足らず、物語に登場するアイテムを探しては収集している。

例えばカーバイトランプ（アセチレンランプ）だ。「銀河鉄道の夜」や「税務署長の冒険」などに登場する照明器具で、炭化カルシウムと水を反応させて発生した可燃性のガスを燃料としている。その真鍮製のレトロな見た目に、ついつい手を出してしまった。他にも、バラ売りの活字を購入してみたり、必要に迫られていないのに六神丸を買ったり、灯台守が持っているような大きな鍵を骨董品店で買ったり…、今まで随分と色々なものを買った。ちなみに大きな鍵の正体は鍵の形をした大きな栓抜きだった。ときおり、サイダーの瓶を開けるのに使っている。次に欲しいと考えているのは「水仙月の四日」の“赤い毛布”、「ボラーノの広場」の“ガラス函のちょうちん”だ。

さて困ったことに、作品に刺激されているのは物欲ばかりではない。作品の世界を追い求めていると、様々な場所を訪れる事になる。例えば愛知県犬山市。そこにある明治村にはポールドワイン社のSLが動態保存されている。かつて岩手軽便鉄道を走っていたものと同型だ。



明治村にはもちろんそれだけでなく、立派な教会や、灯台、そして旧帝国ホテルの正面玄関など一見に値する建物が数多く有り、1日いても全く飽きない。“聖地巡礼”が物語の（特にアニメや漫画の）舞台やモデルになった場所を巡る行為を指す言葉として使われるようになってから久しいが、これもそのかたちの一つなのかもしれない。さて、賢治作品において“聖地”と言うならばもちろん岩手県だが、昨年3月ついに“巡礼者”であった私は、巡礼の前線基地に身を置くことになる。生まれ育った東京を離れ、岩手に移住したのだ。とはいって、「まさに日常が“聖地巡礼”になる！」とまで極端なことはならず、日頃は端々にひょっこり現れる賢治さんを見かける程度のものだが。それはそれで面白い。それでも、夏の初めに道端に咲くホタルブルクロ、道路を横切っていく生き物たち、そして広

い広い空、冬に降り積もる雪…と、賢治さんの作品を想像するために必要なものが、当然そこにはある。

いわゆる“聖地”は県内に数多く有るが、もちろんそこはドリームランドではなく、あくまで現実世界としての日本国岩手県。言わば作品の欠片だ。しかし、そこから脳内補正で幻想第四次の世界や、賢治さんの生きた時代へと旅立ててしまう。これは私だけではないと思う。近頃テーマパークがあちこちにできている。テーマパークはそこに

いることで作品の世界を味わうコトができるが、賢治作品を用いたテーマパークができる日は…おそらく来ないだろう。創られても逆に自分の想像していた世界に見劣りして、がっかりしてしまいそうだ。

賢治作品に出会い、岩手まで来てしまった。ひとことで言ってしまえば簡単だが、それは賢治作品の持つ、岩手の風土を下地とした絶対的な世界観があればこそ。今日も作品の欠片を本に、そして岩手の生活の中に探している。

## 結い — 賢治が繋ぐ心と心 —

### 「賢治さんの生きた証を感じた冬」

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業

放送会社勤務

漆畠萌里



私は東京出身で、就職し4月からテレビ局で音楽番組の制作に携わっています。  
2022年1月、東京・練馬文化センター小ホールで上演したミュージカル「銀河鉄道の夜」のプロデュースと演出を担当しました。

公演を行うにあたり賢治さんゆかりの地を訪れたいと思い、訪問した花巻での思い出を振り返ろうと思います。

本企画は「連弾野郎」という連弾ユニットが以前発表した音楽朗読劇「銀河鉄道の夜」をミュージカル化するため、芸術系の大学生を中心にプロジェクトを進めてきました。

クラシック音楽、ジャズ音楽、バレエ、コンテンポラリーダンスなどを交え、公演後には文京区の小学校で演劇ワークショップも行いました。

新型コロナウイルスの影響で2度公演中止を余儀なくされましたが、コロナ禍の今こそ、ジョバンニの求める「ほんとうのさいわい」が多くの人的心に届くのではないかと思い、共同主催者の脚本・坂間と公演を立ち上げました。

初めて花巻を訪れたのは、公演の3日前でした。公演直前のため、1泊2日で盛岡市内と花巻市内を案内していただきました。

東北新幹線で盛岡駅に着くと、駅のロータリー

には雪が降り積もっていました。雪に慣れておらず、油断していたので急いでスノーブーツを調達したのち、まず「もりおか啄木・賢治青春館」を訪れました。館長さんから、盛岡では演劇や芸術活動が活発で、今まで様々なバージョンで賢治作品を取り上げていると伺いました。続いて館長さんに盛岡市内の賢治さんにゆかりのある場所を車で案内していただきました。

到着して間もないものの、賢治さんが今も愛されていることを街の至るところで感じ取りました。

それから新花巻駅へ移動した頃には、もうすっかり夜になっていました。息を吸っただけで空気の冷たさで鼻がツンとする感覚、そして空気が澄んでいて夜空の星が美しいことに驚きました。

翌朝、宿泊先の花巻温泉近くにある、日時計花壇を案内していただきました。雪をかぶって真っ白でしたが、葉を落とした木々はいずれ春になればどれほど鮮やかになるだろうと想像しながら歩きました。

昼頃からは「宮沢賢治記念館」、「宮沢賢治イーハトーブ館」、「宮沢賢治童話村」、「林風舎」を訪れ、賢治さんの蔵書や植物のスケッチ、チェロや採集道具などを拝見しました。ご本人の名刺まであったので、「教科書にのっている文豪」だと思っていた賢治さんを、少し身近に感じられました。

花巻を訪れるまで、あの不思議で豊かな唯一無二の世界観はどうやって生まれたのだろう、と不思議に思っていましたが、実際訪れたら、賢治さんの過ごした花巻という土地には「イーハトーブ」があり、草木や花、花巻の景色すべてが賢治作品

の証人となっているように感じました。

東京に帰り、「銀河鉄道の夜」で重要な宇宙や星、さまざまな情景描写を素直に感動し、感じ取ってほしいとキャストに伝え本番を迎えました。公演はコロナ禍ではありましたが、多くの方に足を運んでいただき、公演後には「久々に原作を読み直している」と何人の方にも言っていただきました。



東京の舞台上でも少しはイーハトーブの風をお客様に届けられたのかもしれない、と嬉しい気持ちになりました。

今回の花巻滞在を通して、文献を読むだけでは実感できなかった賢治作品の素晴らしさに気づくことができました。

花巻の方々の優しさに触れ、これから賢治作品を読むたびに今回の滞在を思い出すと思います。これまで賢治作品にあまり触れることのなかつた人でも、花巻の皆さまが伝え続けられている賢治作品の素晴らしさに一人でも多く気付き、花巻の地に訪れることを願つてやみません。

この度は本当にありがとうございました。

## 「雲と、散文」

農夫・音楽家 菅間一徳



「なべての心を 心とせよ」と、言うのです。  
私の心を、そのまま心とせよと、  
言うのです。

生まれ育った東京を発ち、長野県で一年間農に従事し、そして日本の何処かで、今ここに、奥州江刺の山間に百姓を生き始めるまで、どうやってここまで、何に依つて来たのかと、ふと

田畠の中で思い返します。

### 「なべての心を 心とせよ」

このひと言に依つて。

名前しか知らない、作品などほとんど読んだこともない青年のたつひと言に、いつか触れたのです。それは私がまだ、東京に暮らしていた時のことでした。

なんと淋しい言葉かと、思いました。

私は本当に、ここに文章を寄せることができるような者ではないのです。それ程に、宮沢賢治という人の遺した作品を知らないのです。

しかしこの人の噛み続けた淋しさのほんのひと掬いだけは、それだけは、この田畠に見るよう思うのです。

ひとりきりの鍵入れの瞬間に

七畝のジャガイモ畑の草に座り込む一日に  
初めて育てた稲穂を前に、ぽろぽろと涙をこぼして佇んだ時間に。  
そして、収穫の恵みを金に勘定する自分自身に、  
見るように思うのです。

それは、私はこうやって生きてゆき、そうして、こうやって死んでゆくのかという思いです。きっと農夫の誰もに在り、そしてその人だけにしかない思い。他の誰にも言うべきものではない、思います。

### 「なべての心を 心とせよ」

いつかの自分の心が、そう生きることを心としたのです。それは2020年の6月、小さな軽自動車に載るだけの荷物と楽器だけを持ってこの山間にやつて来た私の、たつひとつのお守りでした。

私は今、美しい集落に暮らしています。先人たちが、この山間の陽差しを求めて切り拓いたかのような田んぼの連なりと、その中に白の色彩を添えるような蕎麦畑。その端っこに、ささやかな私の田畠があります。

ここに来た日の翌日から、少しづつ立ててきた畝

に草を刈り敷いてゆく日々のなかで、宮沢賢治という人は私の農を何と言うかと、ふと思ひます。一度立てた畝を壊さず、土を耕さず、農薬、肥料の一切を田畠に持ち込まない私の農は、きっとこの人とは相容れないものだろうと、何となく思うのです。しかしだからこそ、話してみたかった。

不耕起の農のことを。草と微生物の働きにより當む農のことを。そんなことを、想像するのです。そして、私が彼にかける言葉のことを、思います。

「私はあなたを、遺した作品の上澄みで語るようなことは決してしない。

本当に農夫を生きることに依つてのみひとりで石原の草を刈ることに依つてのみ、私はあなたを理解しようと努める。

なぜなら、私自身が農夫である限り音楽家である

と、思えるのは、あなたが本当に、そう生きたからです。」

締め切りをとうに過ぎてしまったこの文章を書いている今、この夜中。外では秋の虫が鳴いています。

田んぼでは穂が姿を見せ始めました。  
大根、人参の芽が出てくれています。  
何日も続く長雨に、果菜類に頭を悩ませ、田んぼの水路の心配をして。

こんなふうにして、こうやって生きていくのだと、思うのです。

それはたぶん、雨には負けるということなのですけれど、それはそれで、私の心なのです。



## ■「賢治の世界」セミナー 2022

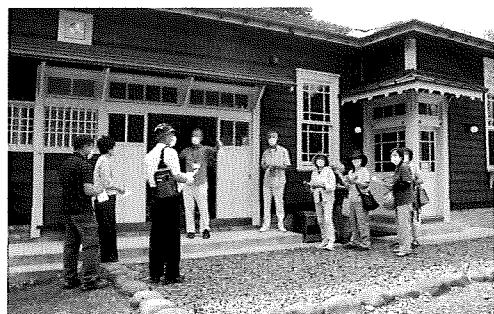
コロナ禍で、学校の友達との演劇や音楽鑑賞が少なくなる中、開催した学校の中には、友達が喜んでいる様子を近くに感じながら見ることができて嬉しかったという感想も聞こえてきました。7月13日（水）には、今年度末で閉校となる花巻市立笛間第二小学校として最後のセミナーを実施しました。全校児童11名が、牧野幹さんの語る「よだかの星」の朗読や、その世界観に合わせて奏でられるフルートやパーカッション、ピアノに耳を澄ませ、楽しみながら聞いている様子が伝わってきました。感想発表の場では、高学年の方が低学年の方を助けてあげるような場面もあり、思いやりと温かさを感じました。来年度から新しい学校でも仲良く頑張ってくださいね。



## ■「賢治の世界」ワークショップ 2022

《賢治ゆかりの地・六原（金ヶ崎）を訪ねて》

賢治作品にまつわるゆかりの地に実際に行ってみて、見て聞いて感じてみる、毎回大人気のワークショップです。今回訪れたのは、岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原にある「軍馬の郷六原資料館」。7月30日（土）に開催しました。当日は猛暑でしたが、案内をしてくださった方に熱心に質問をしながら、じっくりと見学をしました。その他、岩手県立花きセンターにも足を運び、温室の中で熱帯の果樹や花、食虫植物やハーブなども見ることができました。春や秋に訪れてみたらまた違った光景を楽しむことができそうです。残念ながら、経塚山や駒ヶ岳は曇っていて見ることは叶いませんでしたが、金ヶ崎町の武家屋敷や古民家をバスの中から見ながら帰路につきました。



## 《特別展》のお知らせ

### ◆『心象スケッチ 春と修羅』開催中!

宮沢賢治記念館には、これまでに寄贈、寄託された賢治の生前唯一の詩集『心象スケッチ 春と修羅』の初版本を6冊所蔵しています。今回の特別展では、これら全てを公開するほか、この本に69篇所収されている作品の中から自筆原稿を数篇公開します。令和4年度は賢治の妹トシ没後



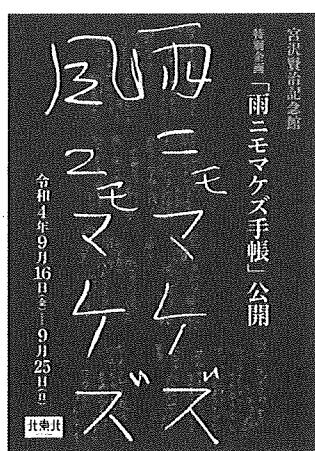
100年ということで「永訣の朝」をはじめとするトシの死を悼む詩の公開を予定しています。

#### 期間

9月16日(金)～9月25日(日)

『心象スケッチ 春と修羅』初版本(6冊)  
「永訣の朝」、※「雨ニモマケズ手帳」

### ◆「雨ニモマケズ手帳」公開



「雨ニモマケズ」は賢治が花巻の実家にて闘病中の頃、死の2年前である昭和6年11月3日に愛用している手帳に書かれたものとされています。手帳の全165ページにわたり文学作品の下書きやメモ、経典や自戒の手記などが記されています。

おり、「雨ニモマケズ」は51～60ページに書かれています。晩年の賢治がどのような思いをもって生きていたのか、この手帳を通じ感じいただければと思います。10日間限定での公開となりますので、この機会に是非ご来館ください。

#### 期間

令和4年9月16日(金)～9月25日(日)

○展示資料

雨ニモマケズ手帳(林風舎所蔵)

### ☆雨ニモマケズ手帳公開記念講演

令和4年9月19日(月・祝) 13:30～

講師 株式会社林風舎 宮澤 和樹 氏

### ☆開館40周年記念行事 胡四王神樂

令和4年9月21日(水) 13:30～

演舞：胡四王神楽保存会

※どちらの催しも入館券が必要です。(一般：350円、高校：250円、小中学生150円)

### ◆特別展「童話 カイロ団長」

大正10～11年に書かれたとされる作品で、他の作品の裏面に書かれた下書き稿8枚と清書稿24枚が現存します。公開するのは、清書稿のみですが、パネルでは下書き稿の詳細や作品の解説について展示します。

#### 期間

令和4年10月1日(土)～令和5年5月7日(日)  
自筆草稿の公開

①令和4年10月1日(土)～10月10日(月・祝)  
1～12枚目

②令和5年4月29日(金・祝)～5月7日(日)  
13～24枚目



#### \*編集後記\*

最近、宮沢賢治の人間関係や作品について、インターネット環境で語り合う機会がありました。SNSを通じて知り合ったのですが、東北と関西という距離を感じさせない温度感で話はずみ、まるでずっと昔から友達だったような親近感がありました。コロナ禍で、直接会うことの緊張が長く続く中、心が温まる嬉しい機会でした。若い賢治ファンは恥ずかしがり屋の方もいて、実はつながりを持つことは難しいです。そこで個人で発信をしたり、コメントをもらったりすることが容易にできるSNSやウェブラジオを、最大限に利用してつながりを作っています。いつか実際にお会いして、存分に語り合える日が来ることがとても楽しみです。(Y.S)